

6.2 教育研究指導のあり方

進捗状況報告

【6-2-1 カリキュラムにおける高・大接続】
高大連携を推進するため、高等部への授業提供（「いのちを考える」）、また近隣の高校生が受講できる科目を開講するなど試みている。

【6-2-2 履修指導】
学年担任制、教務主任・学生主任の役割を精査し、これまで以上に効率的な指導体制を構築する方策を検討中である。また教員と学生のコミュニケーションの時間であるオフィスアワーの充実も図っている。さらに認証評価の結果を受けて、シラバスの充実を計るため、FD研修会を活用している。

【6-2-3 社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮】
現時点でも、社会人学生、外国人留学生、帰国生徒は1年次からの入学であり、他の一般学生と同等の扱いとしている現状に関して、特に問題はないと考える。

学内第三者評価

コミュニケーション・ツールとしての英語を科目として充実することは評価できる。さらに、将来的に、専門書の研究に使うだけでなく、宗教活動や日常の仕事の実践道具とする能力を育てるためのカリキュラム上の工夫が望ましい。